

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム杉の木 本館2階		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町本町704		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191513704-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 24時間医療連携がとれる体制を整えている 地域の食材、特に旬の物を利用した手作りの料理を提供している 介護が画一的にならないように個々の入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心掛けている ご家族様も参加できるような催し物を企画、開催している 地域のボランティアの方々がか催し物へのお誘いや家庭菜園の手入れなどで協力して下さる 内装は地元の杉材を利用し、落ち着いた雰囲気です統一している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム杉の木」はJR木古内駅より徒歩5分程の距離で、目の前には佐女川神社の寒中みそぎが行われる浜辺があり、この町に暮らす人の見慣れた青い海の風景が窓の外に広がり、潮の香りが嗅覚を刺激する。近隣には木古内町国保病院や健康管理センター、老人保健施設いさりび、ドラッグストア、コンビニエンスストアなどがあり、生活に便利な環境に立地している。鉄筋コンクリート3階建ての2階と3階が当事業所で、事業所内は道南杉を使った和風を基調とし、掘り炬燵付の小上りを設置して、趣きのある落ち着いた雰囲気を醸し出している。共用空間は随所に花と有名画家の貼り絵を飾るに止め、無駄を省いて品よく温かく纏められている。2018年10月1日より「グループホーム杉の木」と「グループホーム杉木別館」は株式会社として新たなスタートをしているが、代表者(医師)や管理者、職員は、開設時からの基本理念を心の拠り所として今までと同様に利用者の生活を支援している。地域との関わりも深く、近くのそば屋は6~7年間に渡りそばを振舞いに来訪したり、利用者が在宅当時に行きつけだったすし屋は、出前を頼むと本人の好物を握って届けてくれる。不定期に「認知症カフェ杉の木」を開催して代表者のミニ講演や嚙下体操、相談も受け、専門性を発揮しながら地域に無くてはならない存在として、大きな役割を担っている。利用者と家族を大切に「住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援」を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内の見やすいところに掲示。職員だけではなくご家族、来客の方までも目にすることができます。毎日の申し送りやホーム会議で再確認を行い実践に取り組んでいます	代表者は理念はケアに影響する重要なものであると考えており、朝夕の申し送り時やホーム会議で振り返り再確認して、「住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援」を代表者や管理者、全職員、家族で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事には体調に合わせて参加し、ホーム主催の行事は事前に案内を掲示し地域の方々の参加を呼び掛けています。隣の老健施設との交流、認知症カフェの開催、近所の飲食店が食事を振舞ってくれたり地域との交流は少しずつ深まっています	代表者をはじめ管理者や職員は、地域の方々と顔見知りの関係を築いている。ドラッグストアでは衛生用品の選び方などの相談に気軽に応じたり、「認知症カフェ」で深刻な相談も受けており、専門性を活かして地域活動の大きな役割を担っている。佐女川神社例大祭では、行列が敷地内まで入り玄関前で奴の舞を披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々に認知症、介護に関する不安や相談に対応できるようにしています。認知症カフェを主催し認知症やホームへの理解や認識を深めるよう努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回を重ねいろいろな意見交換が行われるようになっていきます。貴重なご意見をもとにサービスの向上に努めています	家族や行政・消防署・町内会長が出席して、2か月ごとに開催している。運営状況報告や災害対策、利用者の日常を写真で紹介するなど、多岐にわたる情報交換を行っている。家族に議事録や情報資料の送付も考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回開催の地域ケア会議の他、会議以外の場でも地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々との密に連絡を取りサービスの質の向上、提供に取り組んでいます	町の担当とは利用状況報告をしたり、研修会の情報交換をするなど、連携を密に図っている。運営者は講演会や研修会の講師を依頼されることも多く、協力体制が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する講習や勉強会に参加、伝達講習を行い認識の共有を図り、やむを得ず身体拘束が必要な場合はご家族に相談し事情を説明、理解を得て同意書にサインをいただいた時のみ行う事としています	日頃から管理者と全職員は身体や言葉など、拘束に該当する行為はないかチェックし合い、委員会も設置して勉強する機会を多く確保して認識を共有し、拘束や抑制の要らない介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する講習、勉強会に参加、伝達講習を行い認識の共有を図り、高齢者虐待の予防、未然防止し適切に対応できる職員になるように努めている		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め必要とされるケースに遭遇した場合それらの制度を活用するため関係機関と連携を深めるように態勢を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退所時は十分な説明を行い「じっくりご覧になって何かございましたら聞いてください」とお伝えしています。特に料金や起こりうるリスク、看取りの対応、医療連携について詳しく説明し、ご理解と同意をいただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に相談、苦情について家族に説明し、意見や苦情がある時は運営者に報告、職員全体で改善に取り組み運営に反映しています	利用者からは日々の生活に寄り添いながら思いや希望を汲み取り、家族の来訪時や電話・手紙など事あるごとに、生活の細部にまでわたり意見の聴取に努めている。表出した意見は全職員で検討して結果を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り職員同様入居者の状態把握に努め記録の確認、申し送り時の意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム会議の場を活用しています	管理者はチームワークを大切にしており、連絡ノートを活用したり、日常的に職員に声かけをして、忌憚のない意見や要望を聴き、全職員で話し合い結果を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的にホームを訪れ入居者と過ごしたり勤務の実態を把握し他に職員親睦の機会を設け相談やアドバイスをしています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料や講習の開催をしたり健康を保つための健康診断を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望、要望によりテーマを決め事業所内研修を行っています。外部研修会や報告会には勤務体制を変更してほぼ全職員が参加できるようにしています。報告はレポートで提出、保管いつでも全職員が閲覧できるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会会合などで同業者と交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学や面談を行い状態の把握をする とともに本人の話を伺い、家族や関係機関の方にも同席していただき情報を得ています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気軽にお話できるような環境と面会時にも意見要望を伺うように努めています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず本人の状態を報告し希望に添えるよう病院受診、主治医の変更など様々な対応を行っています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな献立を聞いたり調理の下ごしらえ、調理や味見、おやつのお買出しや散歩、会話など共に生活していくことで信頼され支えあえる関係を構築しています			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならないよう配慮の上で必要な時に家族にも協力していただくことでそれぞれの役割をもって本人を支援しています			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会やなじみの場所、外出支援など入所後も今までのような交流ができるよう努めています	友人や知人の訪問時には居間で一緒に寛いでいる。行きつけのスーパーや理・美容院に行く利用者は職員が送迎をし、馴染みのすし屋から出前を取り、こだわりのビールを飲むことが楽しみな利用者など、今までの関係や習慣が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士でお付き合いや会話できるよう気配りしています。職員も一緒になって個々の関係の把握や情報共有を徹底し利用者さん同士のトラブルを未然に防ぐよう努めています			

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方へお見舞いに行き様子をお伺いしたり退所された方の家族が遊びに来たりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りから声をかけ表情や態度から希望や意向を確認しています。一人ひとりの想いを大切に臨機応変に対応しています	日々の生活に寄り添いながら、思いや意向を受けとめ、家族からも好きな料理、おしゃれなどの情報を得て一人ひとりの希望が叶う様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人、家族にできるだけ色々な事を伺い入所後も面会に来た家族に確認したりすることで以前の生活状況を把握するよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、家族の話から生活歴、性格、意向を把握し生活リズム、心理面の変化は生活記録に記載して個人の全体像の把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行っており本人、家族の希望を取り入れ次の計画に反映させています	毎月のホーム会議で全利用者のモニタリング・カンファレンスを行い、医師の意見や家族の希望を採り入れ、現状に即した介護計画が作成されている。更新は6か月を目途としているが、病変や体調などに変化があれば検討を加えて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれのファイルを用意し、生活記録を活用しスタッフ間で情報を共有。気付いた事、身体、精神的状況他暮らしの様子、本人の言葉を記録し話し合いながらケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族に希望に応じて通院、買い物、理美容院、外泊外出など柔軟に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の様々な接点を見出せるよう周辺施設、ボランティアへの協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の月2回の訪問診療と本人、家族が希望するかかりつけ医を利用することにより医師、家族、ホーム間の報告、連絡、相談を密にすることで適切な対応を行っています	殆どの利用者は代表者(医師)をかかりつけ医としているが、専門医への通院同行は家族と相談しながら対応し、受診後は状態・状況報告を密にして、安心できる体制を整えている。	

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師がより細かく入居者の健康管理を行い本人、家族が安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員付き添い医師に必要な情報を正確に提供しています。入院中も職員が見舞うようにし、本人、看護師から話を伺い現状把握に努め、退院後のケアに結ぶつよう職員、家族間で連絡を取り合っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から主治医や家族、本人と十分に話し合い方針を統一し、状態に変化ある毎に報告、相談、できる事とできない事を明確に説明し方針や支援の具体的な内容を話し合います。主治医、看護師、介護士が一体となり本人や家族の意向を踏まえ本人らしく過ごすためにチーム全体で話し合いを行い支援します	契約時に看取りに関する指針を本人と家族に十分説明して同意を得ているが、利用者の状態の変化に応じて都度、医師が家族に説明して、再度家族の意思確認をしている。医師を中心としたターミナルカンファレンスを行い、看取りケアプランを作成して、利用者・家族の思いに沿った看取り支援をしている。今年度も1件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当やAED講習会を開き緊急時適切な対応ができるよう努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防、災害対策計画を定め毎月の自主検査、年2回の訓練および講習を行っています。非常時は職員連絡網のほか近所の健康管理センターにも連絡し、非番スタッフのほかセンター職員も応援に来てくれる体制を整えています	消防署や近所の公共機関職員の協力を得ながら年2回訓練を行っており、備蓄品の充実も図っている。更なる取り組みとして、入浴中やトイレ介助時を想定した避難方法も検討している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や羞恥心に配慮しプライバシーを損ねない声かけを行い個人記録はロッカーに施錠して管理。職員採用時には個人情報漏洩防止に関する制約を交わし遵守しています	呼び名は家族と相談して、本人が心地よい呼称に決めている。介護の基本は礼節であると考え、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で各自が自分で決められるような声掛けを行っています。食べ物の好み、テレビ番組、何をしたいかなど表情や反応を含めその人らしく過ごせるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっていますが、その日の調子や気分に応じペースに合わせた生活ができるよう個別に対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の希望や意思で行っていただき天候、体調に合わせ助言しています。衣類が汚れているときは更衣をすすめたり、髪が伸びてきたらなじみの理美容院にカットを頼んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し個別のメニューも用意したり希望を反映した献立作りなど楽しく食事ができるように工夫しています。野菜の下ごしらえや味付け、味見、おやつ作りなど一緒に行っています	食材は地産地消にこだわり、旬の物を使って利用者の嗜好や食事形態を考慮した献立を作成している。出前を希望する時は、個別対応して食事が楽しくなる様に努めている。お正月は管理者と職員が、手作りのおせち料理を振る舞っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事水分摂取量を毎日記録し、職員が栄養のバランスに注意して毎日の献立を考えています。摂取量が少ない方へは味付け方や盛り付け方、量の加減、きざみやとろみをつけたり工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄は声掛けまたは介助にて行っています。口腔内の観察も行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は紙オムツ着用している方でも日中は紙パンツ着用しトイレ誘導したり、ポータブルトイレを使用することで排泄できています。羞恥心に配慮し状態に合わせて快適な排泄ができるよう支援しています	トイレでの排泄を大切に考え、おむつ使用でも時間誘導や様子を見て声がけをして、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。退院当初はおむつを使用しているも、トイレでの排泄を支援することで、表情により変化が表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、十分な水分補給、無理のない範囲での運動などできるだけ自然排便できるように支援しています。下剤の服用は主治医と連絡を取り調整行い服薬しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間に入浴できるようにしていますが、入りたくないときは無理に進めず時間をおいて再度勧めたりとか、翌日に声をかけてみることで対応しています。入浴前は体調伺いバイタル測定し異常ないこと確認してから入浴しています。	週に5日間はお湯を入れて、希望に沿って入浴できるように準備を整えている。入浴剤や花を浮かべるなど、楽しくなる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できないのは其々に理由がありますが日中の活動を通して不安感をなくしゆっくり休めるよう支援しています。室温や部屋の明るさも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さん毎に薬箱を用意し名前付食前食後など記入、服薬前後は2重の確認を行い飲み忘れや誤薬を防いでいます。それぞれの処方ファイルで確認でき職員が内容を把握できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色々なレク、お手伝い、軽作業などそれぞれに合ったものを生活の中から探し出し、一緒に楽しんだり、感謝の言葉を伝えていきます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は買い物や散歩に出かけたり家族と外出や、地域のイベントにも足を運んでいます。屋上に行ける階段昇降機があり外の景色を眺めたりくつろいだりできます	花見や紅葉狩りなど季節に合わせた計画的な外出も行っているが、毎月のようにドライブも楽しんでいる。日常的に買い物や散歩をしたり、景色を眺めながら日光浴を楽しむなど、気軽な外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に希望もあり大半の方は施設側で厳重な管理をしていますが、個人の能力に合わせ少額なら自分で管理できる方は家族と相談の上自己管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身でできない方にはプライバシーに配慮した上で職員が代行で電話を掛けたり、代筆してはがき、手紙を書いています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節の飾りつけをしたり、小物の作成や植物の水やりなど行ったりと一緒に過ごすように心がけています。施設内はこまめに清掃行い快適に過ごせるよう配慮しています	温度や湿度が適切に保たれ、掃除が行き届いた共有空間や居室は陽射しもたっぷり入り、季節の花々や貼り絵をすっきりと品よく飾り、廊下の一角には掘り炬燵も設置して、ゆっくりと落ち着ける空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は自由に共有空間を利用でき、好きな時に部屋で過ごしたりできます。長く部屋にいるときはさりげなく見守りを行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたなじみの深い物品を用意してもらおうよう願っています。災害時に居室入口をふさがないように本人家族と相談の上配置しています。必要な場合は施設から家財道具を貸し出しています。	居室にはクローゼットが設置されており、衣類や寝具・買い置きの品々を収納している。使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、自分らしい個性豊かな部屋を作り、ゆっくりと寛げる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや居室入口に目印をつけたり、食事はそれぞれに合わせた高さの違うテーブルを用意したりと自立した生活が送れるよう環境づくりを行っています		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム杉の木 本館3階		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町本町704		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 24時間医療連携がとれる体制を整えている 地域の食材、特に旬の物を利用した手作りの料理を提供している 介護が画一的にならないように個々の入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心掛けている ご家族様も参加できるような催し物を企画、開催している 地域のボランティアの方々がか催し物へのお誘いや家庭菜園の手入れなどで協力して下さる 内装は地元の杉材を利用し、落ち着いた雰囲気統一している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191513704-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内の見やすいところに掲示。職員だけではなくご家族、来客の方々も目にすることができます。毎日の申し送りやホーム会議で再確認を行い実践に取り組んでいます		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事には体調に合わせて参加し、ホーム主催の行事は事前に案内を掲示し地域の方々の参加を呼び掛けています。隣の老健施設との交流、認知症カフェの開催、近所の飲食店が食事を振舞ってくれたり地域との交流は少しずつ深まっています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々に認知症、介護に関する不安や相談に対応できるようにしています。認知症カフェを主催し認知症やホームへの理解や認識を深めるよう努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回を重ねいろいろな意見交換が行われるようになっていきます。貴重なご意見をもとにサービスの向上に努めています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回開催の地域ケア会議の他、会議以外の場でも地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と密に連絡を取りサービスの質の向上、提供に取り組んでいます		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する講習や勉強会に参加、伝達講習を行い認識の共有を図り、やむを得ず身体拘束が必要な場合はご家族に相談し事情を説明、理解を得て同意書にサインをいただいた時のみ行う事としています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する講習、勉強会に参加、伝達講習を行い認識の共有を図り、高齢者虐待の予防、未然防止し適切に対応できる職員になるように努めている		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め必要とされるケースに遭遇した場合それらの制度を活用するため関係機関と連携を深めるように態勢を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退所時は十分な説明を行い「じっくりご覧になって何かございましたら聞いてください」とお伝えしています。特に料金や起こりうるリスク、看取りの対応、医療連携について詳しく説明し、ご理解と同意をいただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に相談、苦情について家族に説明し、意見や苦情がある時は運営者に報告、職員全体で改善に取り組み運営に反映しています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り職員同様入居者の状態把握に努め記録の確認、申し送り時の意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム会議の場を活用しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的にホームを訪れ入居者と過ごしたり勤務の実態を把握し他に職員親睦の機会を設け相談やアドバイスを行っています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料や講習の開催をしたり健康を保つための健康診断を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望、要望によりテーマを決め事業所内研修を行っています。外部研修会や報告会には勤務体制を変更してほぼ全職員が参加できるようにしています。報告はレポートで提出、保管いつでも全職員が閲覧できるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会会合などで同業者と交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学や面談を行い状態の把握をする とともに本人の話を伺い、家族や関係機関の方にも同席していただき情報を得ています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気軽にお話できるような環境と面会時にも意見要望を伺うように努めています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず本人の状態を報告し希望に添えるよう病院受診、主治医の変更など様々な対応を行っています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな献立を聞いたり調理の下ごしらえ、調理や味見、おやつのお買い出しや散歩、会話など共に生活していくことで信頼され支えあえる関係を構築しています			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならないよう配慮の上で必要な時に家族にも協力していただくことでそれぞれの役割をもって本人を支援しています			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会やなじみの場所、外出支援など入所後も今までのような交流ができるよう努めています			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士でお付き合いや会話できるよう気配りしています。職員も一緒になって個々の関係の把握や情報共有を徹底し利用者さん同士のトラブルを未然に防ぐよう努めています			

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方へお見舞いに行き様子をお伺いしたり退所された方の家族が遊びに来たりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りから声をかけ表情や態度から希望や意向を確認しています。一人ひとりの想いを大切に臨機応変に対応しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人、家族にできるだけ色々な事を伺い入所後も面会に来た家族に確認したりすることで以前の生活状況を把握するよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、家族の話から生活歴、性格、意向を把握し生活リズム、心理面の変化は生活記録に記載して個人の全体像の把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行っており本人、家族の希望を取り入れ次の計画に反映させています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれのファイルを用意し、生活記録を活用しスタッフ間で情報を共有。気付いた事、身体、精神的状況他暮らしの様子、本人の言葉を記録し話し合いながらケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族に希望に応じて通院、買い物、理美容院、外泊外出など柔軟に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の様々な接点を見出せるよう周辺施設、ボランティアへの協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の月2回の訪問診療と本人、家族が希望するかかりつけ医を利用することにより医師、家族、ホーム間の報告、連絡、相談を密にすることで適切な対応を行っています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師がより細かく入居者の健康管理を行い本人、家族が安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員付き添い医師に必要な情報を正確に提供しています。入院中も職員が見舞うようにし、本人、看護師から話を伺い現状把握に努め、退院後のケアに結ぶつよう職員、家族間で連絡を取り合っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から主治医や家族、本人と十分に話し合い方針を統一し、状態に変化ある毎に報告、相談、できる事とできない事を明確に説明し方針や支援の具体的な内容を話し合います。主治医、看護師、介護士が一体となり本人や家族の意向を踏まえ本人らしく過ごすためにチーム全体で話し合いを行い支援します		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当やAED講習会を開き緊急時適切な対応ができるよう努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防、災害対策計画を定め毎月の自主検査、年2回の訓練および講習を行っています。非常時は職員連絡網のほか近所の健康管理センターにも連絡し、非番スタッフのほかセンター職員も応援に来てくれる体制を整えています		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や羞恥心に配慮しプライバシーを損ねない声かけを行い個人記録はロッカーに施錠して管理。職員採用時には個人情報漏洩防止に関する制約を交わし遵守しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で各自が自分で決められるような声掛けを行っています。食べ物の好み、テレビ番組、何をしたいかなど表情や反応を含めその人らしく過ごせるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっていますが、その日の調子や気分に応じペースに合わせた生活ができるよう個別に対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の希望や意思で行っていただき天候、体調に合わせて助言しています。衣類が汚れているときは更衣をすすめたり、髪が伸びてきたらなじみの理美容院にカットを頼んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し個別のメニューも用意したり希望を反映した献立作りなど楽しく食事ができるように工夫しています。野菜の下ごしらえや味付け、味見、おやつ作りなど一緒に行っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事水分摂取量を毎日記録し、職員が栄養のバランスに注意して毎日の献立を考えています。摂取量が少ない方へは味付け方や盛り付け方、量の加減、きざみやとろみをつけたり工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄は声掛けまたは介助にて行っています。口腔内の観察も行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は紙オムツ着用している方でも日中は紙パンツ着用しトイレ誘導したり、ポータブルトイレを使用することで排泄できています。羞恥心に配慮し状態に合わせ快適な排泄ができるよう支援しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、十分な水分補給、無理のない範囲での運動などできるだけ自然排便できるように支援しています。下剤の服用は主治医と連絡を取り調整行い服薬しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間に入浴できるようにしていますが、入りたくないときは無理に進めず時間をおいて再度勧めたりとか、翌日に声かけてみることで対応しています。入浴前は体調伺いバイタル測定し異常ないこと確認してから入浴しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できないのは其々に理由がありますが日中の活動を通して不安感をなくしゆっくり休めるよう支援しています。室温や部屋の明るさも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さん毎に薬箱を用意し名前日付食前食後など記入、服薬前後は2重の確認を行い飲み忘れや誤薬を防いでいます。それぞれの処方ファイルで確認でき職員が内容を把握できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色々なレク、お手伝い、軽作業などそれぞれに合ったものを生活の中から探し出し、一緒に楽しんだり、感謝の言葉を伝えていきます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は買い物や散歩に出かけたり家族と外出や、地域のイベントにも足を運んでいます。屋上に行ける階段昇降機があり外の景色を眺めたりくつろいだりできます		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に希望もあり大半の方は施設側で厳重な管理をしていますが、個人の能力に合わせ少額なら自分で管理できる方は家族と相談の上自己管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身でできない方にはプライバシーに配慮した上で職員が代行で電話を掛けたり、代筆してはがき、手紙を書いています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節の飾りつけをしたり、小物の作成や植物の水やりなど行ったりと一緒に過ごすように心がけています。施設内はこまめに清掃行い快適に過ごせるよう配慮しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は自由に共有空間を利用でき、好きな時に部屋で過ごしたりできます。長く部屋にいるときはさりげなく見守りを行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたなじみの深い物品を用意してもらおうお願いしています。災害時に居室入口をふさがないように本人家族と相談の上配置しています。必要な場合は施設から家財道具を貸し出しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや居室入口に目印をつけたり、食事はそれぞれに合わせた高さの違うテーブルを用意したりと自立した生活が送れるよう環境づくりを行っています		

目標達成計画

事業所名 グループホーム杉の木

作成日：令和 1年 11月 25日

市町村受理日：令和 1年 11月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	51	遠方にご家族に契約書類、ケアプランを送付する際に最近の様子を書いた紙も一緒に送付しているが、次に送るときに期間があいてしまうので短期間で様子をお知らせしたほうがいいのではないか	遠方のご家族に今よりもこまめに様子をお伝えする	2か月おきに送付している広報誌に近況を書いた紙も一緒に送付する	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。